

令和5年度 江戸川区立葛西第二中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら進んで学ぶ生徒になろう</li> <li>あたたかい豊かな心の生徒になろう</li> <li>健康でたくましい生徒になろう</li> </ul>	<p>目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像</p>	<p>生徒が喜んで活動し、一人ひとりの確かな学力や個性、社会性を伸ばし保護者・地域から信頼される学校 本校で学ぶことに誇りをもち、主体的に粘り強く、豊かな社会性や思いやりをもった生徒 生徒一人ひとりの成長やそれを支える教育活動に最大の努力を惜しまない教師</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>	<p>&lt;成果&gt;新型コロナウイルスによる制約が余儀なくされるなかにおいて、本校の教育方針に準拠し、最大限の成果を得られる教育活動を全教職員が一丸となって遂行することができた。 &lt;課題&gt;①新型コロナウイルス以前の状況に円滑に戻していくにあたり、教職員の情報共有を円滑に実践する。 ②新校舎建て替えに準じた仮設校舎建設など、様々な変化のなかにおいても生徒の学びの機会を安定させるように、計画的な実践を図っていく。</p>	

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ①授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ②「学力向上のための補習の充実」に向け、放課後補習事業における外部組織と連携した教育活動の充実	①全国学力、学習状況調査等における結果分析に基づいた指導の充実と、教員の学習指導力の向上を図る。 ②放課後補習教室の拡張事業(数学・英語)の充実を図るため、綿密に連携した指導実践を運用していく。	①-(1)全国学力調査の中央値において、東京都、全国数値を上回る。 ①-(2)英検2回以上、漢検2回以上、教検2回の校内会場での実施。 ②-(1)全国学力調査を活用した課題の分析を年間1回以上実施し、放課後補習授業の充実に活用する。 ②-(2)130回以上の放課後補習授業の実施	A	A	①数検は受験者が少なく、実施できなかったが、今後も目標設定のため、実施参加の呼びかけは継続する。また、各検定は目標回数を上回り実施し、各教科指導においても学力向上への意識向上で指導実践したことに、全国学力調査において目標値を越えることができた。 ②-(1)全国学力調査の分析データを、教員で共有することができ、放課後補習教室との連携も密に行えた。 ②-(2)実施回数145回	A	・学力調査の結果向上など、学校での教育活動が成果につながったことは素晴らしいです。今後も効果的な教育活動を計画的に実践していてもいいと思います。	・学力調査においては、全ての生徒の実力が向上できるように、それだけの既習学習の実態に応じた実践を図っていく必要がある。そのため、時年度の各教科の年間指導計画作成時に適切な実践計画を組み込んでいく。
	<読書科の更なる充実> ①読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ②図書館を活用した、探究的な学習(調査、調べ学習、体験活動、討論等)の実践	①江戸川っ子 読書科コンクールの参加と、ピリオハトルの充実実践。 ②図書館を活用した、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導と自己の考えをまとめ表現する方法の指導実践	①-(1)各学年年間1回以上のピリオハトルの実践 ①-(2)年間100日を目指した昼休みの図書館開放 ②-(1)2週間に1回の区立図書館と連携強化により充実した図書館を運営する。 ②-(2)図書館を活用した校外学習の調べ学習などを年間1回以上行う	B	B	①各学年での実施は計画的に行うことができた。 ②図書館開放153回 ③図書館支援員との連携を密に、生徒が活用した「図書館運営」の実践ができた。また、仮設校舎への移転にも協力を得ることができた。 ④図書館資料及びiPadの活用により、校外学習等で活発な探究的な学習が行えた。	A	・GIGAスクールにおける一人一台端末の活用とともに、図書館の適切な活用を進めていってほしいです。 ・毎年実践しているピリオハトルなど、今後も続けていくとともに、HPなどで活動の様子を楽しみにしています。	・年度末より仮設校舎への移転により、現在と環境が変わるため、調整をしながら計画を立案できるように、見直しをもった運営を心がける。 ・ピリオハトルなど効果がある実践は継続行うように、次年度の学年に内容を引き継いでいく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ①令和5年度、令和6年度東京都体育健康教育推進校における研究・研修の計画的実践の充実 ②平常授業における保健体育での補強運動の充実や休み時間における主体的な運動意欲の向上	①令和5年度、令和6年度東京都体育健康教育推進校に係る校内研修を充実させる ①令和5年度、令和6年度東京都体育健康教育推進校に係る授業実践を充実させる ①外部の講師を招いた研修の充実を図る。 ②夏季以降における仮設校舎に伴う運動施設の縮小の対策を考慮したうえで、充実した運動時間を	①-(1)研究に関わる研修を年間3回以上実施する。 ①-(2)大学教授を招いた研修等を年間3回以上実施する。 ①-(3)研究に係る研究授業、授業兼研究を年間3回以上実施する。 ②1)仮設校舎における敷地制限があるなかでも、体力向上に向けて、生徒が意欲的に活動できる環境整備を検討し、実践する。	B	A	①-(1)②教員研修の校内研修及び大学教授を招いた研修に計画的に実践することができた。 ①-(3)令和5年度33名、家庭科、保健体育の授業を中心に計画的な授業研究が行えた。 ②ゲストティーチャーを活用した講演会を全校生徒を対象に実施し、その内容を保健体育の習性を活用するなど、制限のある学習環境の中でも計画的な実践を図ることができた。	A	・新校舎に向けて、制限のある環境下でも効果的な実践ができるよう、研究推進校としての有意義な実践を進めていってほしいです。 ・運動場がない環境は大変ですが、学校全体が一丸となって取り組んでもらいたいです。	・体育健康教育推進校としての取り組みは、2年目に移行する予定で、本年度の取組と成果を学校全体で共有し、より効果的な成果に結びつくよう計画実践していく。 ・新体力テストの数値だけでなく、生徒の運動、健康に関する意識の向上が図れるように、アンケートの作成から、具体的な数値の獲得まで行っていく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ①ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ②生徒を支援するシートの作成を充実 ③エンカレッジルームの活用促進 ④副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	①校内特別支援部会の充実や、職員会議等での情報共有を活性化させ、授業ユニバーサルデザインの整備を整える。 ②ICTを活用した支援シート等の充実を図る。 ③エンカレッジルームの活用促進 ④副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	①-(1)ユニバーサルデザイン等の研修を1回以上実施する。また、資料を作成し通年で使用していく。 ①②校内特別支援部会を年間70回以上実施していく。 ④鹿本学園との情報交流を適宜実施していく。	A	A	①1、2年生の教室に情報制限をし、授業に集中できる環境をユニバーサルデザインの観点を入れて整えた。 ②③4年生の情報交換を密に共有する特別支援部会を全37回実施することができた。また、特別支援部会との連携も密に行い、電子データもと共有することができた。 ④鹿本学園とは手紙でも連携を実施している。	A	・多様性があり、先生方の対応が大変なことは重々理解したうえで、全生徒が有意義な学校生活を送れるように環境整備も取り組んでいってほしい。	・校舎の環境によって、全生徒が困らないように、適切な環境整備を早期に図っていく。 ・生徒の情報迅速かつ正確に把握し、共有していくことが、適切な支援・指導の基礎であるため、次年度も計画的な特別支援部会の実践を図っていく。
	<特別支援教室拠点校として実践> ①他校へ発信する本校の実践モデルケースの充実	①特別支援教室拠点校として、本校の取組を通信という形で発信していく。	①各学期で通信を1通以上配信、配布する。	B	B	①目標値としての発行は計画的に実践することができている。また、他の拠点校通信も、全先生方に周知し、広く情報を得られる環境を整えることができた。	A	・次年度も同様に特別支援教育の実践を進めていく。	・多様化する生徒の実態に即し、保護者や関係機関との協力のもと、適切な対応を図っていく。そのため、生活指導部会を本年度と同回数発行していく。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ①不登校対策の実施・充実 ②ヤングケアラーの理解を深めた教育相談の強化 ③スクールカウンセラーによる1学年生徒全員面接の充実 ④hyper-Qの活用	①校内不登校対策委員会と校内特別支援部会の連携を図り、不登校対策の実践を図っていく。 ②ヤングケアラーにたいする全員面接の実施 ③7月までにスクールカウンセラーによる1学年生徒対象の全員面接を実施する ④hyper-Qの実施とデータ分析を生かした指導の充実を図っていく。	①教育研究所との連携を密にし、年間30回以上の生活指導における情報交換を行う。 ②ヤングケアラーに対する全員面接を年間1回以上実施する。 ③スクールカウンセラーによる全員面接を年間1回以上実施する。 ④hyper-Q調査を年間2回実施する。	B	B	①年間3回を超える会議の実践が図れている。また、教育研究所だけでなく通信指導部会との連携も昨年以上に密に行うことができた。さらには教育プログラムの連携も他校本職員の訪問するなど、よい連携が図られるようになってきた。 ②③④ヤングケアラー面談、QI調査、スクールカウンセラー面談など、多くの機会に適切な対応を図ることができ、その情報を共有し、多くの未然防止、早期発見に役立てることができた。	A	・今後とも地域とともに充実した学校運営をおこなっていきましょう。	・本年度も多くのボランティア活動に本校の生徒が参加することができた。次年度は計画的なアナウンスを心がけ、より多くの生徒が参加できるようにする。
	<学校と家庭、地域、関係機関との連携> ①学校評議員会をはじめとする、関係機関と充実した年間の指導計画の作成。	①学校評議員会において、学校関係者評価の内容について検討し、実践内容を深めている。	①学校評議員会を年間7回以上実施する。	A	A	①規定回数の実施とともに、地域行事などの際にも本校の様子を伝えるなど、より良い連携がとれている。また、地域の悪いを教育実践に取り組むことができた。	A	・今年度も地域とともに充実した学校運営をおこなっていきましょう。	・本年度も多くのボランティア活動に本校の生徒が参加することができた。次年度は計画的なアナウンスを心がけ、より多くの生徒が参加できるようにする。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ①学校(園)ホームページの充実等 ②学校(園)公開の実施・充実	①学校生活や食育に係る給食の情報など、学校生活情報を積極的に発信していく。 ②土曜日授業を学校公開とし、多くの保護者に來校してもらえよう。実施案内をふくめ、HPなどで情報を発信していく。	①年度内の学校HPアクセス数を15000達成できるように充実させていく。具体的な達成目標としては13000アクセスを目指す。 ②年間3回以上の土曜日を公開授業とし、多くの保護者の理解と協力が得られるようにする。	A	A	①HPのアクセスとともに、tetoruの情報発信など、情報伝達意識を最大限生かした周知、広報を展開することができています。悪評に関しては11000悪評を超え、本年度目標13000を目指し、継続実践していく。 ②学校公開を活用し、生徒の活動を保護者や地域の方に見てもらうことができた。また、アンケートでは	A	・学校HPをはじめ、TETORUの運用、学校だけでなく様々な情報発信により、学校の様子を日々確認することができています。今後も日々の教育実践や生徒の活躍を発信できるように続けていってほしい。	・150000アクセスは365日、一日400アクセスで達成できる目標である。全校生徒が400名を超過している本校では、全家庭が毎日1回アクセスすると達成できる。その目標が達成できるように、今後も毎日更新をはじめ、よりよい情報発信を心がけていく。
	<学校関係者評価の充実> ①教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①学校関係者評価を学校評議員会で周知し、検討し深めた内容を学校HPに掲載していくことで、多くの保護者に情報を伝えていく	①年間3回の学校評議員会の開催と、学校関係者評価を年間3回にわたりHPに掲載し、進捗状況を周知していく。	B	B	①学校関係者評価について、2月評議員会終了後に最後のまとめを第3回として掲載していく。	A	・保護者、地域の代表である学校評議員の意見を受け止め、今後もよりよい学校運営に努めていく。	・本校で育まれる生徒の姿を明確に、今後も保護者、地域の協力のもと、教育活動を実践していく。
特色ある教育の展開	<愛校心を高める教育実践> ①葛西第二中学校で学ぶ事に誇りをもち、向上心と自立心を持った生徒の育成	①葛西第二中学校で学ぶ事に誇りをもち、向上心と自立心や自己実現に向けて行動できる生徒を育成していく。	①毎月1回以上の学校便り(芙蓉)を発行し、プライド8における取組等を伸ばさせる教育実践を図る。	A	A	①2月現在で28号を発行するなど、月一回の発行を大きく上回る。HPとともに多くの情報を発信することができている。	A	・評議員として校長先生の取り組みを理解し応援しています。生徒の健全育成に向けこれからもお願いいたします。	・本校で育まれる生徒の姿を明確に、今後も保護者、地域の協力のもと、教育活動を実践していく。
	<働き方改革プラン> ①学校経営支援を担う人材の活用と、適切な職務遂行の実践 ②関わりやすいPTA組織改革と取り組む実践の見直し	①SSS(スクールサポートスタッフ)の人材を育み、教員の職務遂行を円滑にしている。 ②PTA組織の見つめなおしと、円滑な運営実施	①各学期に1回以上のSSSと管理職の情報交換会を行う。 ②PTA役員の人数を減らし、集まりも減らした運営を行う。	A	A	①計画的な実践とともに、改革の対応として年度途中でSSSが一人追加され、環境の制限下で適切な学校運営がとれている。 ②PTAの人数など、大きな変革を實踐し、成果につながることができている。	A	・保護者が関わりやすく、負担軽減のための改革は良いことです。より多くの保護者にボランティアとして協力してもらえようになるといいと考えます。	・今後ともPTAとして、多くの保護者に学校にかかわってもらえるようにするために、担う責任の軽減化などを図っていく。